

さがみはらの

# かがやき【輝】



緑区牧野

「作ることを愛する人」が輝く場 緑区牧野(藤野地区)

数多くの芸術家や作家が移り住む「芸術の町」として知られている藤野。緑濃い里山を背景に、ギャラリーとカフェが並ぶ『ふじのアートヴィレッジ』を訪れた。9棟のコンテナギャラリーでは、陶磁器、木工品、ガラスなど個性的で魅力あふれる作品が展示され、どのギャラリーから見学しようかと迷うほど。作品を手にとって作り手に話を聞いたり、プロの手ほどきで様々な体験ができるのも魅力の一つだ。「神奈川県立藤野芸術の家やシュタイナー学園ができ、国内外から芸術家らが訪れるようになりました。人と文化の交流が進み、ここ藤野が気に入って移住する人が増えていったのです」と話すのは、アートヴィレッジの設立・運営に関わってきた中村賢一さん。「自分の世界を大切にする“創作する人”を年齢、国籍問わず受け入れてきました。各々が技を磨きながら、お互いを尊重し『小さくとも輝く藤野』を目指したからこそ、訪れなくなる町、住みなくなる町へと進化したのだと思います」。話を聞いた後、広場を囲むようにして立つギャラリーをぐりと見渡すと、展示されている作品一つひとつも、作り手の笑顔も、作品を手を取る人の顔も、キラキラと輝いて見えた。



**N** 9つのコンテナギャラリーが立ち並ぶ  
ふじのアートヴィレッジ  
**Note** 神奈川県相模原市緑区牧野5570  
<http://www.fujino-artvillage.com/>  
開廊日: 毎週土曜・日曜 開廊時間: 11時頃~16時頃

中央道 相模湖ICより約10分

カフェのテラスで味わえるのは、陶芸家の中村藤平さんが生地からこね、自家製ベーコンとバジルソースなどを使って焼き上げるこだわりのピザ。これを目当てに訪れるリピーターも多いとか。アートヴィレッジでは、毎月第4土曜日に「エレファントマーケット」が開催され多くの人で賑わう。



アキノヨーコさん(ガラス作家)

「ガラスを吹くことを、自分の生活の一部にしたい」。ガラスという素材の魅力に惹かれて始めたというアキノさんの「レースガラス」はとても優美な作品だ。立体的なレース模様は一つずつ表情が変わり、幻想的で見飽きることがない。華やかな見た目だけでなく、使う人のことも考えて、手に馴染みやすく、毎日の暮らしに調和するように考えられている。作品について話を聞いていると「ガラスが好き」というアキノさんの思いがひしひしと伝わってきた。

写真提供: アキノヨーコさん(左・右上)



河内白秋さん(木工家)

河内さんのうつわは、生木から削り出し、その後乾燥させているため、自然な歪みやひびが入る。自然がつくるかたちの美しさやよく見ると一つひとつ個性が変わるのも、木のいのちが感じられて飽きることがない。「木のうつわで食べると美味しいんですね、といってくれる人もいて。そんなときは、とても嬉しいです」。ギャラリーの棚には、丸みを帯びたかたちのスプーンや豆匙などが並び、どの作品からも河内さんの人柄そのもののような、やさしい温もりを感じる。



塚本義之さん(なんでも作家)

「楽しみながら自分で何でも作りたい」語ってくれたのは、「なんでも作家」の塚本さんだ。理想のモノづくりに取り組む環境を求めて、5年前に藤野へ移住してきた。「シンプルなデザインだけれども、上品さや可愛さがあること。いつでも身に付ける事ができ、長く愛されることを目指しています」。天然石とロウピキの糸をていねいに編んで組み合わせたアクセサリーは、クラシカルでありながら新しさも感じ、女性を中心に人気が高いというのも頷ける。